

うじがみ い せき
氏神遺跡 現地説明会資料

朝日村教育委員会, (一財)長野県文化振興事業団長野県埋蔵文化財センター

氏神遺跡の発見

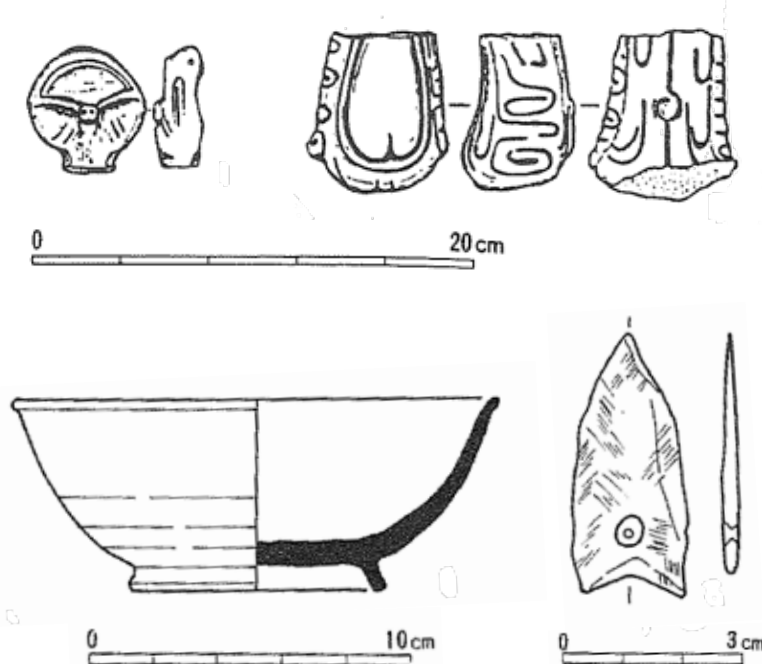
氏神遺跡の発掘調査は、今回が初めてです。

しかし、遺跡の存在自体はかなり以前から知られていました。

1951(昭和26)年に國學院大學^{おおばいわお}大場磐雄教授と県文化財専門委員の^{いっししげき}一志茂樹先生による村内調査で氏神遺跡をはじめ^{くまくほ}熊久保遺跡、^{やまとりば}山鳥場遺跡、^{だいにち}大日遺跡の現地踏査が行われています。

さらに1991(平成3)年に刊行された『朝日村誌』では氏神遺跡でそれまでに表採された遺物が紹介され、この遺跡が縄文時代草創期から平安時代にかけて人々の生活の舞台であったことがわかってきました。

今回の発掘調査でも縄文時代と平安時代の遺構や遺物が発見され、また弥生時代のものと思われる石器もみつかっています。



第1図 氏神遺跡表採遺物(『朝日村誌』下巻 1991年)

氏神遺跡の景観



第2図 氏神遺跡の位置

氏神遺跡は鎖川に向かって北に流れる内山沢がつくった谷の左岸段丘上に立地します。

この段丘は基盤となる砂岩や泥岩の上に乗鞍火山帯起源のローム層が厚く堆積しています。このローム層を掘り込んで縄文時代や平安時代の人々が建物などを造っていました。

遺跡は東に緩やかに傾斜し、日当たりのとても良いところです。眼下には松本、塩尻の市街地が一望でき、遠くには鉢伏山や美ヶ原を望む大変眺望のよい土地でもあります。



第3図 南方向から氏神遺跡をみる



第4図 調査区と発見された遺構

発見!! 縄文時代と平安時代の建物跡と土坑群

今回の発掘調査で縄文時代の^{たてあな}竪穴建物跡を6軒、平安時代の^{たてあな}竪穴建物跡1軒と^{ほったてばしら}掘立柱建物跡2棟、そして縄文時代と平安時代の^{どこう}土坑を約100基発掘しました。

上の写真で黄色の○が縄文時代の竪穴建物跡、青の□が平安時代の竪穴建物跡、緑の□が掘立柱建物跡を示しています。土坑はこれらの建物跡の周辺に多く掘られていますが、写真で赤い○で示した土坑は建物跡から離れた場所に位置しており、この土坑は縄文時代の^{おとあな}陥し穴と考えています。

縄文時代の竪穴建物跡のライフヒストリー

縄文時代の竪穴建物が作られてから使用、建替え、廃棄にいたる一連の過程がよくわかります。

この建物跡 (SB1001) は古い建物 (SB1002) を壊して造られました。その後、拡張され、その時に柱穴の位置が移動し、本数も増えています。



第5図 竪穴建物跡 (SB1001) の遺物出土状況

古い建物の柱穴からは、柱を抜き取ったと思われる痕跡も確認できました。

その後、この建物跡が埋まる過程で後世の縄文人が土器などを廃棄した様子がわかりました。

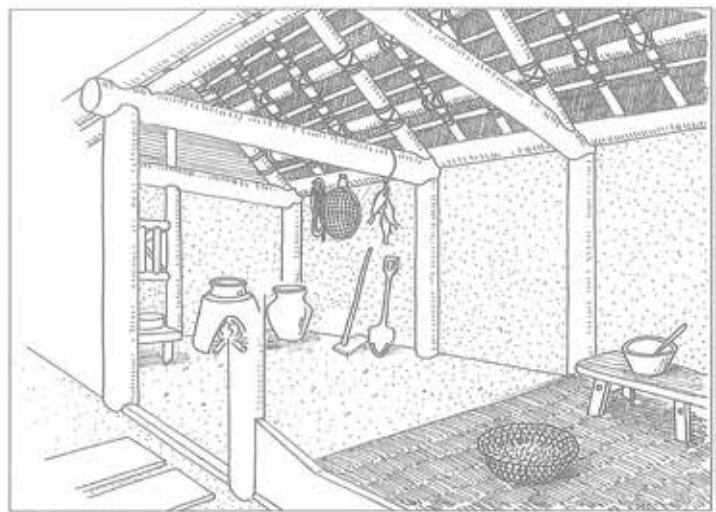
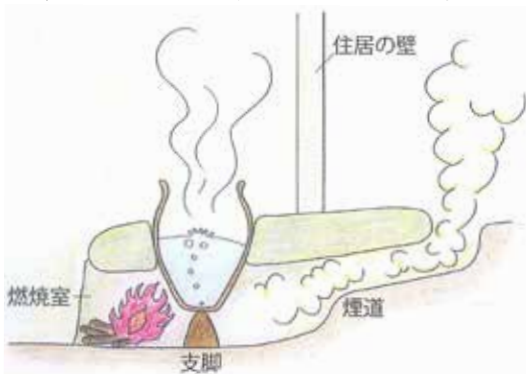


第6図 縄文時代竪穴建物復元図（『いま信濃の歴史がよみがえる』1991年）

平安時代の2種類の建物跡

平安時代では竪穴建物跡と掘立柱建物跡の2種類の建物跡がみつかりました。竪穴建物跡は出土遺物から10世紀半ばには使われなくなったと考えられます。このころには調理はカマドで行われるようになります。カマドは建物を廃棄するとき壊されることが多く、SB3001のカマドも壊されています。

掘立柱建物跡は2棟とも柱を10本持つ2×3間のものです。



第8図 掘立柱建物跡内部予想図
（『古代住居と古墳』1989年）




第7図 カマド復元図と構造
（『三角原遺跡』2005年）

※遺跡現場には滑りやすく足元の悪い箇所がありますので、見学の際には転倒やケガがないように十分ご留意ください。



ホームページには氏神遺跡の情報も載っています。

長野県埋蔵文化財センター
〒388-8007 長野市篠ノ井布施高田 963-4
TEL (026)293-5926
FAX (026)293-8157
E-mail info@naganomaibun.or.jp
インターネット（最新の情報はこちらから）
長野県埋蔵文化財センター 検索 
<http://naganomaibun.or.jp/>